

## 提 案 書

平成26年9月26日

(あて先)

埼玉県教育局教育総務部教育政策課長 様

所 属：所沢市立並木小学校

職 氏 名：校長・嶋崎 栄一

連絡先の電話番号： 04(2995)2983

埼玉県教育委員会教職員提案制度募集要項に基づき、次のとおり提案します。

**タイトル：** 全教員の教科指導力を向上させる「協同的な授業検討会」実践システムの構築

**実践事例の要旨：**「協同的な授業検討会」は、授業実践後の研究協議会に参加した全ての教員の教科指導力向上を目指したものである。一般に授業研究協議会は、全教員への学校課題の周知・共有を基に、学校課題解決のための仮説や方策を設定し、校内研修で授業を実践し、仮説検証を行うものである。しかし通常の授業研究協議会では、参加者から意見があまり出ないことも多く、授業実践での仮説・方策を検証したり自身の授業を省みたりできない場合がある。

本実践の特徴は、次の5つである。1つめは、授業者が授業前に、学校課題解決のための方策を授業の中でどのように実践するか全教員に説明し、教員は授業者の意図を予め理解しておくことである。2つめは、具体的な授業中の指導場面に即して協議を行うため、授業録画を再生しながら行うことである。3つめは、経験年数を越えてベテラン、中堅、若手の意見交流を盛んにするために、付箋紙を利用しながら意見を発表し合うことである。4つめは、授業検討会終了後にすべての参加者が本時の授業、研究協議会、自身の実践等を省みてアンケートに記入することである。5つめは、当該アンケートの内容を校長・教頭も確認し、教室訪問、自己評価に係わる面談等にも利用し、継続して総合的に全教員の教科指導力を向上させることである。

本実践で不可欠なことは、その目的を全教員に周知・徹底させておくことである。即ち「協同的な授業検討会」は、授業の巧拙を問わず、児童生徒に「学び」が成立しているかどうかを問うものであるということである。

**実践に至った背景：**埼玉県教育行政重点施策の基本目標Ⅲ「質の高い学校教育を推進するための環境の充実」に示されたように「教職員が大量に退職する時期を迎え」「児童生徒の学びを支える教科指導力や生徒指導力、学級経営力を高めるため、若い世代の育成を含め教員研修の充実」が必要である。また児童生徒一人一人の学力と学習意欲の確実な育成ために、教員の指導力向上が不可欠である。そのためには意図的・計画的な授業研究の実践と、適切な研究協議会の運営とにより教員の指導力を向上させ

ていく必要がある。教員全員で積極的に意見を交換し、各自が自身の授業実践を省みることができるように意図的に運営することが大切である。教科指導力・学級経営力は、先輩教員から新人教員へと知識・技能が伝承される側面が強かったが、「教職員の大量退職」等により、今後は、その伝承が困難となる可能性があり、これまで以上に組織的・計画的な教育活動、学校経営が不可欠である。学校研究（校内研修）を中心に据えた学校経営が一層求められ、新たな状況に対応した教科指導力の養成、研修の仕組みを構築する必要があると考え、本実践に至った。

### 実践のねらい及び内容：

〈ねらい〉学校課題解決のための授業研究実践が適正に行われているか検証するとともに、すべての教員が自身の教育実践を省みて教科指導力を向上させること。

そのねらいを達成するための具体策は、次の5点である。

- ①学校課題解決のための仮説・方策に沿った協議会にすること
- ②教師間の発言等、言語による交流を盛んにすること
- ③実践した授業の指導場面や状況に即した協議にすること
- ④児童に学び（思考力、判断力、表現力の育成）が成立しているかを吟味するとともに、教員が協同して、よりよい指導方法を探ること
- ⑤自身の授業実践を省みることができるようにすること

〈内容〉流れについては（資料1）である。

- ①について、授業者は学校課題解決のための仮説・方策等、指導意図を授業前に全教員に説明しておく。前日の放課後20分程度を利用し、学校研究の目標に沿って説明する。質疑をし、予め授業者の意図を理解しておく。当日の司会者は、仮説・方策、意図等から離れることがないように司会をする。
- ②について付箋紙を利用する。①の授業者の意図を念頭に、授業を参観しながら黄色、青色の付箋紙にメモをする。黄色の付箋紙には、学びが成立している等のよい点・ふさわしい活動等、青色の付箋紙には、学びが成立していない等の疑問点・改善が必要な点等）実際の研究協議会では拡大した指導案の展開部分に貼りながら意見を交換する。
- ③授業の様子を録画し、再生しながら「協同的な授業検討会」を行う。可能であれば授業者にピンマイクをつけ、個別支援の声も録画に拾えるようにする。参加者は授業の中の具体的な場面を見ながら協議をする。
- ④について、付箋紙を貼りながら児童に学びが成立しているかどうか等を話し合い、司会者は学校課題解決のためにどのような指導や方策が相応しいか議論を促す。
- ⑤協議会終了後、参加者全員がアンケートに記入する。

**実践の成果や効果：**全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査並びに幾つかの調査や教室訪問等から把握した成果と課題である。学力・学習状況調査等の結果から全般的に高めの正答率をあげることができている。しかし正答率の分布が二極化しており、具体的な対応をとる必要がある。教師は、個人差があるが教科指導力が向上し始めている。児童に学びが成立しているか把握する力が付いてきた教師もいる。学校課題を意識する様子が校内研修での発言や指導案に表れてきている。

その他、実践の成果と課題をできるだけ客観的に把握するため、量的測定と質的変容について考察した結果を記述する。

＜量的測定＞ （資料 2 参照）

- (1) 協同的な授業検討会での発話数が増加し、教員の意見交流が盛んになった。
- (2) 同様に、発話時間が増加した。
- (3) 協同的な授業検討会の行い方に慣れ、実施時間が短縮した。

＜質的考察＞

授業を実践した 2 年目の教員の記述と協同的な授業検討会に参加した教員らの記述から抜粋する。

(1) 授業を実践・公開した教職 2 年目の教員のアンケートから

「他の先生方が、私の指導（授業）を見て、どう思われたのか」ということを、とても知りたかった。」また「参加された先生方の意見はたいへん参考になり」「子どもの意欲を高める具体的な指導法を教えてもらい、早速実践した」等を述べている。そして「日々の授業準備やノートなどの丸つけで忙しい時もあったが、協同的な授業検討会はとても勉強になり、今思えばたいへん貴重な経験をさせていただいたと思っている」と振り返っている。当該教師の具体的なアンケート記述は、資料 3 に記す。

(2) 参加した 30 代、40 代、50 代のアンケートから

協同的な授業検討会に参加した感想やその中で自身の授業を省みた様子が記されている。当該教員らの具体的なアンケート記述は、資料 4 に記す。

(3) 自己評価に係わる記述等（参加した 50 代教員）は、資料 5 に記す。

**実践期間：** 3 年 0 月

**実践事例のセールスポイント：** 学校研究（校内研修）をとおして、教職員が協同して学校課題を解決しようとする意欲が高まること。併せて、授業者だけでなく、参加した教員の教科指導力が向上すること。

＜実践事例を他校でも活用できる方策等＞

**\* 他校で導入する際のポイント：** ①協同的な授業検討会の目的について周知することが大切であると考え。②協同的な授業検討会の行い方を周知することである。

**\* 失敗しないための秘訣：** 同上：①協同的な授業検討会の目的について周知をすること②協同的な授業検討会の行い方を周知することである。

**\* こうすれば自校よりも高い効果が得られるという方策：** 本校では十分にできなかったことであるが、校内研修計画とともに、校長は、校内研修の計画と自己評価に係る面談の計画や教室訪問の計画を予め心づもりをしておくとういことを考える。

**\* その他：**

**公的支援（予算措置や教職員の加配等）への要望**

授業者が付けるピンマイクが学校にない場合が多いので、そのための公的支援を要望する。

**実践元の所属長確認  
動画や写真の使用許可**



※ A 4 判縦の用紙に横書き 3 枚以内で提出してください。

※ 資料（印刷物、動画や写真の DVD）を添付していただいても構いません。

◎ 印刷物による資料は規定枚数には含みません。

◎ 資料提出に当たっては著作権や肖像権等に御注意ください。

※ 実践を行った学校名等が公開される可能性があります。予め、実践元の所属長に提案内容について御確認ください。

## 資料1 協同的な授業検討会の流れ

### 協同的な授業検討会の流れ

- 1 授業者は授業について説明する。
  - (1) 授業者は授業前に授業の意図や重視したい学習活動等を参加者に説明する。
  - (2) 参加者は説明を聞き、授業者への質問をとおして予め授業者の意図を理解しておく。
- 2 授業検討会での役割を分担しておく。
  - (1) 司会
  - (2) 記録・まとめ係
  - (3) 評価係
  - (4) ビデオ操作係
- 3 授業の録画をしながら、授業を参観する。
  - (1) 授業者にピンマイクをつけ、個別指導の声かけや児童の反応が録音できるようにする。
  - (2) 参加者は、授業者の授業意図や重視したい学習活動等を中心にして、よいと感じた点を黄色い付箋紙に、疑問に感じた点を青い付箋紙にメモしながら参観する。
- 4 協同的な授業検討会を行う。
  - (1) 司会者は、授業者から提示された授業の意図や重視したい学習活動等を中心に協議を行う。しかし、当該活動に係わる原因がそれ以前の学習活動にある場合は、それ以前の学習活動から協議する。
  - (2) 参会者は黄色や青の付箋紙を貼りながら、意見や考えを添える。
  - (3) ビデオ操作係は、当該学習活動の場面を再生し、授業の事実にして協議が行われるようにする。
  - (4) 授業者本人に意見を求めることもあるが、基本的には児童に学びが成立させるために、どのような学習活動、指示、発問等がよいのかを協議する。
- 5 一連の協議の後、授業者は、協議の感想を発表する。
- 6 記録・まとめ係は今回の協同的な授業検討会のまとめを行う。
- 7 指導者から本日の指導・講評をいただく。
- 8 アンケートに記入する。

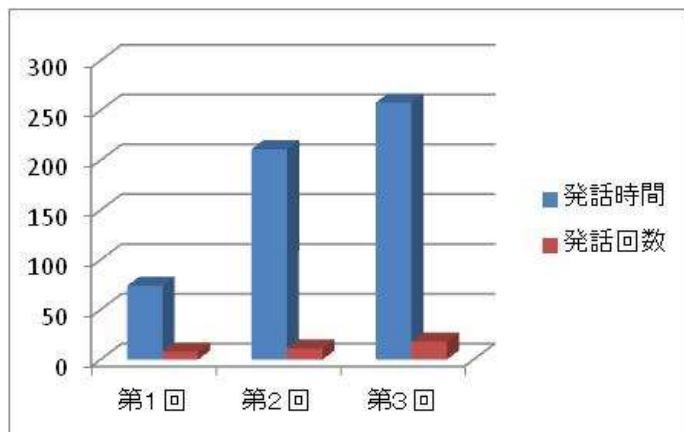
## 資料2 成果と効果 (教員の意見交流が盛んになった様子)

教職2年目の教員は、第1回の協同的な授業検討会では、発話回数は8回、第2回では、発話回数11回、第3回では、発話回数18回と順調に伸びていった。

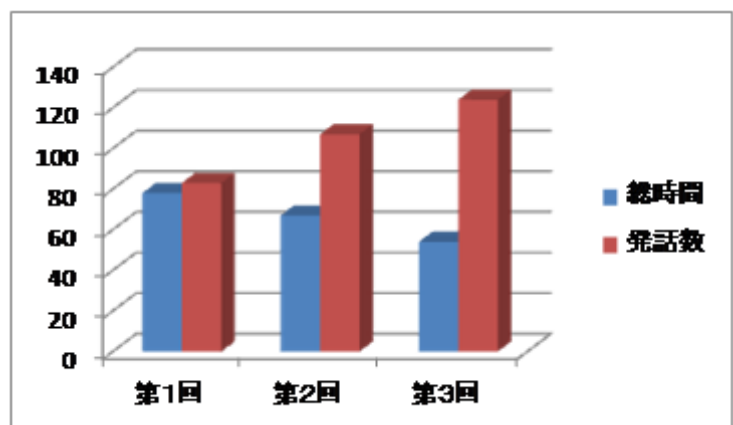
同様に第1回での発話した時間は74秒、第2回では211秒、第3回では258秒と伸びていった。

協同的な授業検討会で参加者が交した意見等の回数(発話総数)は、第1回は83個、第2回は107個、第3回は124個と、短い時間で参加者、授業者ともに発話が多く、活発に交流されるようになった。

協同的な授業検討会にかかった総時間は、第1回は1時間18分、第2回は1時間07分、第3回は54分であった。慣れの効果もあり、短い時間で手際よく、多くの意見交流ができるようになった。



教職2年目の教員の発話回数と発話時間の変化



参加者が交した意見等の回数と協同的な授業検討会にかかった総時間の変化

### 資料 3 教職 2 年目の教員のアンケートの記述から

|  |
|--|
| あなたは、この授業検討会を通してどのようなことを新たに学びましたか。また授業検討会の中でどのようなことを感じましたか。自由に書いてください。 |
| やはり私の説明がどうしても多くなり、もっと子ども達が活発に学び合えるような授業を目指したいなど改めて思いました。               |
| 直接、間接比較の実測の工夫や、計算学習のあり方等、多くのアドバイスを先輩先生方にして頂けて非常に勉強になりました。ありがとうございました。  |

その他の記述から

第 1 学年算数の授業である。授業検討会の議論は、次のような内容についてであった。当該教員が提示した 2 つの学習問題は設定状況が全く違っていたが表された「 $7-2$ 」という式は同じであった。それに対して、児童 M が「同じだよ」という発言を繰り返していた。設定状況が違うのになぜ M は「同じだよ」という発言を繰り返すのか、ということが協同的な授業検討会のその時の話題であった。M は授業者の意図からずれて学習し始めていた。当該教員は、次のように記した。「『同じだよ』という発言について、ただ式を見て、求残と求差の違いをとらえられずに同じ問題だと感じている子はきっと他にもいるのではないか。上の学年(高学年)における指導の際にも、問題の意味を深く考えず、ただ式だけを見て計算をしていると感じる場面もあるという先生方の話を聞き、改めて文章題を読みとらせる力の育成の難しさを感じた。」

次の学習場面は、授業者が空のペットボトルを 2 本提示して、どちらに水がたくさん入るか予想させる場面であった。当該教員は、児童にしっかりと予想を立てさせたいと意図していた。しかし改めて授業録画を視聴すると多くの児童が学習に積極的には参加しておらず、むしろ手持ちぶさたのように思われた。参加者の意見は、この場合、予想を立てさせる活動を程良いところでうち切り、入る水の量を測定する活動に移るべきではないのかというものが多かった。当該教員は次のように記した。「教えている内容について、予想を立てるだけではなく、比べる方法を考えることがメインの活動なので、もっと時間を短縮して、メインの活動へいくべきだったなと思いました。教えている方法について、子ども達は、聞いている時間が多く、手もちぶさたな感じをうけました。聞いているだけでなく、何か書かせる活動も取り入れていくと良いというアドバイスはとても参考になりました。」

次に「大きな数」の題材で、半具体物を活用し算数的活動を行う授業についての議論であった。実際の授業では授業者の指示が十分に児童に通らず、またその算数的活動も学級の児童にとっては難しいものであった。算数的な活動の仕方について児童が混乱している時、どのように授業を修正するかということについて議論をしており、当該教員は次のように述べている。「どの教科においても、共通することがあるのだなという事が分かりました。また改めて活動させる時には、何をどうするのかをはっきりと伝えることが大切だということを知りました。」「また 1 年生を何回も経験された

先生方も同じように感じているのだなと知り、少し安心しました。」

その他にも「児童が飽きないように既習事項を復習する方法」として「全体だけでなく、列や班、個別など形態を工夫し児童が飽きないように、また良い緊張感を与えられるようにすることが大切だと思いました。」等がある。

資料4 (参加した30代、40代、50代の教員のアンケート)

|  |
|--|
| あなたは、この授業検討会を通してどのようなことを新たに学びましたか。また授業検討会の中でどのようなことを感じましたか。自由に書いてください。 |
| (授業者)が子どものつぶやきを拾う姿や注意の仕方がていねいなので参考になりました。                              |
| 1年生がいっしょうけんめい授業に参加しているので、子どもを魅きつける工夫もされていると感じました。(30代教員)               |

|  |
|--|
| あなたは、この授業検討会を通してどのようなことを新たに学びましたか。また授業検討会の中でどのようなことを感じましたか。自由に書いてください。 |
| 今日はありがとうございました。  |
| (授業者)の子どもの意見を聞く姿が真剣で素晴らしかったと思います。今後、自分も真似していきたいです。                     |
| お忙しい中、授業をしてくださった(授業者)、このような研修の場を与えてくださった(本職)、ありがとうございました。              |
| (40代教員)  |

|   |
|---|
| あなたは、この授業検討会を通してどのようなことを新たに学びましたか。また授業検討会の中でどのようなことを感じましたか。自由に書いてください。  |
| 今回も自由に意見を言わせていただきありがとうございました。   |
| 参加教師の経験年数が高いので、お説教くさくならないように…と思って気になります。今日は(授業者)が何を伝えたいのか、子どもにどういう考えを言わせたいのか、意図を確かめた上で意見を言っている人が多かったように思いました。       |
| (授業者)の問いかけに顔を輝かせて答える子どもたちのVTRを見て、自分が授業をしている時は、子どもの表情を見ていないような気がしました。同じことを長くしていると「こう進めるところになる」みたいな思い込みがあるかも…と反省しました。 |
| (50代教員)   |

## 資料5 自己評価シートの記述（50代教員）

### <研修の目標・計画>

「協同的な学び」を通して、児童の思考力、判断力、表現力を高めるためにグループ内での話し合い活動が活発になるような授業をしていく。教員同士の協同的な学びも実践していく。

### <研修の成果・課題>

授業研究会で3年生「分数」の授業を提案することができた。協議会にも「協同的な授業検討会」の手法を取り入れ、参会者の先生方の意見をたくさんいただくことができた。授業における「話し合い活動」の技法を研修していきたい。



児童の話し合う様子を把握する



協同的な授業検討会の様子